○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。それでは、議長より登壇の許可をいただきましたので、２番議員浦泰孝の一般質問を通告に従い始めさせていただきます。

記憶にも新しい夏の甲子園での佐賀北高校の活躍、そして、全国制覇は我々佐賀県民にとって本当に感動と、そして勇気と夢を与えてくれました。その中でも、抑えのエースとしてチームを牽引してくれた投手、久保貴大君は、武雄市山内町宮野の出身、私の同郷ということで、彼の活躍には特に感慨深いものがありました。

樋渡市長を初めとする執行部の御英断により、11月３日の文化の日に武雄市市政功労賞として表彰をしていただけるとのことで、私も心よりお祝いとお喜びを申し上げるものであります。

この夏は、高校総体佐賀大会も無事成功をおさめ、テレビでは「はだしのゲン」のロケ地の一つとして話題に上るなど、元気な武雄市として樋渡市長を初め、執行部の皆様の尽力には敬意を払うものであります。

さて、そのような中、比較的地味な項目事業でありますが、大きな意味での環境について、１つ目は一般廃棄物についてと、２つ目に下水道事業について、要点を絞って推し進めたいと思いますので、御答弁のほどよろしくお願いいたします。

現在、武雄市では一般廃棄物、いわゆる家庭から出されるさまざまな種類のごみの収集、また、これは２項目めの下水処理にも関係するし尿などの収集運搬は、お盆や正月など長期の休止がございます。

古川県政の中で、佐賀城本丸歴史資料館が正月も開館をしておられたり、また、武雄市においても、市立図書館エポカルの開館時間を延長、また休日の開館など、市民の生活様式、要望に即したきめ細やかな公共のサービスが求められております。

とりわけ、この廃棄物の収集運搬の問題は、市民の皆様の生活に直接影響し、衛生上にもかかわる事柄ですので、対策など検討をされておりましたら御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員の御質問は、ごみの減量化ということだと思います。

ごみの減量化につきましては、今年度策定しました３Ｒですね、リデュース・リユース・リサイクル、このほうで皆さんに、例えば婦人会とか、あるいは区長会とか、そういうふうなところで説明会を開きながら、皆さんのごみに対する意識を高めていくという対策をとっています。（「いや、お盆と正月の収集ばい」「収集の方法は、年末とか収集方法について」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁に補足をいたします。

その収集の期間であると思います。条例の規定もありますが、５月の連休、お盆や年末年始及びクリーンセンターのオーバーホール時などの特定の期間は収集、搬入はしておりません。クリーンセンターのオーバーホールは例年９日間あり、施設管理面で必要と思われますが、ごみの収集はライフラインの一つであり、搬入停止期間の短縮化などの改善について３日間程度短縮に向けて検討を進めるつもりであります。

これにつきましては、広域圏組合の事項でありますので、広域圏の管理者として十分に副管理者、あるいは広域圏の中で協議をしたいというふうに思っております。

そして、先ほど部長から答弁があったように、ごみ減量等推進会議での協議をもとにいろいろしよるわけですね。しかし、なかなかやっぱりうまくいかんわけですね。ポスターをつくっても呼びかけをしても、なかなか、これ全国どこも一緒です。

したがって、ここはひとつ市民の皆さん、議会にお願いがありますけれども、せっかくきのうも楼門朝市が大盛況でありました。楼門朝市で御家庭にあって不要になったものですね、これについて出してもらうような制度、仕組みをつくっていきたいというふうに思っております。ただ、預けっ放しにされたら、これが僕らのごみの山になります。したがって、きちんと出した方が自己責任を持って、また持って帰る。そして、売ったものについてはきちんと自分たちの収入にしてもらうと、そういう意味での見てわかりやすいごみ減量化を、楼門朝市を中心にして、楼門朝市をひとつ考えていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

私も今回、この質問を通告いたしまして、広域圏におきまして、オーバーホールのために２週間ほどが休止をされるということを初めて知り、勉強不足を痛感したところでございますが、何分衛生面に関係することですので、その短縮を切望いたします。また、企業等を対象に有料で臨時収集等もされていると聞き及んでおります。これからの時世やニーズを十分に考慮した対策をこれからもお願いするものでございます。

旧山内町では、生ごみなどの収集回収が地域によって週に１回のところ、また２回のところがございます。これは地区の戸数やごみの量など、十分検討をした上での措置だと思われますが、念のためお尋ねいたします。

回数をふやしてほしいなどの市民からの要望ですとか、また、それに伴う委託業者からの問題の提起や相談はあっておりませんか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、確かに地元のほうからそういうふうな要望があっております。それで、区長さん、地区の方と今協議中というところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

今お答えにございましたが、私も一概に集積回数を一律化することが公平・平等とは限らないとは思っております。

また、何よりも厳しい財政状況の中、効率化を図り、経費の削減に努力されることは大いに望むところでございます。

ただ、先ほどから申し述べておりますが、公共のサービス、住民のニーズというものは、家族構成の変化や24時間営業のスーパーやコンビニがあらわすように多様化しております。それらに柔軟に対応していただきたいことを望むとともに、委託業者などに対しても、サービスの向上への指導、そして、そのサービスができるだけの人員配備を初めとする環境整備を常日ごろより監修、監督をしていただきたいと思っております。

また最近、山内の近隣の地区役員の方から連絡をいただいたのですが、集積所において袋に名前が書いておられなかったため、業者が収集運搬をしなかったそうでございます。たまたまその地区が１週間に１度の集積であったため、虫がわき、悪臭を放ち、役員さんが清掃、消毒と大変であったと聞き及んでおります。また、いわゆるごみ収集運搬車、パッカー車で収集する際に、スプレー缶が爆発したり、100円ライターの暴発により火災が発生するなど、危険なケースも報告されているようです。

先ほど、先に御答弁をいただきましたが、これらの事例を通してもわかるように、市民の方へのごみの搬出、分別の周知徹底、また啓蒙活動なども必要だと思いますが、具体的に施策として行われておられることがあればお聞かせ願いたいと思います。

また、まとめの質問になりますが、武雄市の循環型社会計画や一般廃棄物処理計画が作成されておりますが、今後、ごみの減量化や抑制などはどのように取り組まれているか、再度お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

ごみに対する考え、これについて、子供たちには学校に出向いて、あるいは婦人会や区長

会ではそのまま説明会ですね、あるいは地域からの要望があれば出前講座、こういうものを今、ごみに対する認識を高めてもらうということでやっています。

それから、事業所関係には、ごみの減量化計画を提出してもらうように今依頼をしているというところでございます。

それから、市報なんかにもこれから、市報とかホームページに載せながら、リユース、譲ってくださいと、こういう交換の場を持ちたいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

リユースともう１つ必要なのは、リデュース、ごみを少なくするということであります。循環型社会計画において、武雄の計画においては10％削減、これは事業者、あるいは個人の努力目標を課しております。

そういう意味で、最大の問題はごみの量をふやさない、あるいは減らすということになろうかと思いますので、ぜひ御協力方をお願いしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

今、市長のほうから御答弁いただきましたとおり、まさにそういう数値化して目標を設定するということが必要でございます。

ただ、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみを各10％の削減、そしてリサイクル率を10％増加させるということでございますが、数値のみが先んずることなく、現実のものとして遂行できますように、強く御要望いたします。

それでは続きまして、下水道使用料金についてお尋ねいたします。

我が武雄市でも、今年12月より公共下水道の供用が開始されます川端通りほか市内一部でございます。下水道は、市街地などで整備されますこの公共下水道のほか、農業集落で整備されます農業集落排水事業、集落の外や山間地などで個別に整備されます浄化槽に大体大別をされると思います。それぞれに違った特徴があり、経済的かつ効率的に進めるために、地域の実情に応じた処理施設の選択が必要となるわけであります。

これは９月８日付の佐賀新聞、下水道特集のさわりにも記されておりました。また、これも紙面にもありましたが、下水道事業は多くの費用と時間を必要とするため、財政上の理由などで整備が進まない地域が多いとあります。悪い表現をすると、行政、自治体にとっていわゆる金食い虫の事業であり、小規模の自治体などでは、未来を見据えた住環境の整備に対する考え方及び取り組んだ時期と、一方では全国的な厳しい財政状況によるはざまで整備に差がつきやすい事業と言えるかもしれません。

しかしながら、未来の子供たちに残すべき財産としての環境は、地球規模で見ても決して手放しで喜べる状況ではございません。水質の悪化が直接的な要因ではないにしろ、地球温暖化を初めとするさまざまな弊害が私たちの暮らしを脅かしているのも事実であります。豊かな玄界灘や有明海を持ち、水田耕作を初めとする農業県でもある佐賀県として、もちろんのこと汚水処理整備構想を策定して県政の重点項目にも上げておられます。

「がばいばあちゃん」のロケの際、みずから淀姫神社の前で足を水につけられ、川を清掃された樋渡市長でございますが、市民の方にとっての住環境の整備、公共のサービスとして、そして、未来の子供たちへと受け継いでいくための環境整備としての下水道整備事業について、まずは率直に所見をお尋ねいたします。

その際、５万数千の市民の生活、未来を預かる首長として、もちろん現在の財政状況は切って切れないところでございます。そちらの視点からも当然話していただいて結構です。お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今悩んでおります。率直に申し上げまして、この下水道がライフラインではないということで、ぜいたく品と見るのか、それとも、この下水道は先ほどおっしゃったように、未来の子供たちに渡すきれいな水、あるいは住環境を渡していく上で、これは必要不可欠なものかどうか。これをどうとるかによって、今後の下水道のあり方が決まるというふうに思っております。

これについてはさまざまな、この２つの大きな要素がありますので、一概にこれはどうだというのは、今本当に悩んでおります。

その上で申し上げたいのは、下水道は莫大なお金が要ります。そういうことで、ぜひお考え願いたいのは、下水道をやるということになった場合に、それは何かをやめなきゃいけないわけですね。満遍なく、例えば10のものを９にしてやめるたぐいのものではありません。この事業はやめて、これを下水道に持っていくという厳しい選択が必要になろうかというふうに思っております。

その上で、先日、これは西日本新聞の一面だったでしょうか、あるいは佐賀新聞にも載っていたかもしれません。佐賀県が向こう３年間で財政再建団体になるという恐ろしい話が出ておりました。これは、我々も同じであります。平成21年に我々の行革計画では、もう財政破綻を来す可能性があると。そういったところで、どういう公共事業が必要かと。これは下水道でも例外ではないと思います。

そういうことで、財政的、あるいは未来に残すべきもの、さまざまなことを考慮しながら考えていかなければいけないと思いますし、ただ、私は必要性を否定しているわけでもあり

ませんし、必要最小限のものは行いたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

市長の答弁にございました再建団体への先日の新聞の件でございますが、多分その件もお話になるんじゃないかと私も思って、ここに登壇をさせていただきました。

あの件につきましては、若干算定の仕方も変わってきているように聞き及んでおりますが、何分財政的には厳しいことということは、私ども議員も認識をしております。率直な意見を聞かせていただきましたが、ひとまず安心をしたところでございます。

旧山内町では、平成６年度から着手して、一部山間部の合併処理浄化槽利用地区を除いて、ほぼ全域が農業集落排水施設による整備が完了しております。また、旧北方町の橋下地区と、旧武雄市の矢筈地区、川内地区が同じくして農業集落排水施設を整備しているわけであります。周知のように、使用料の料金体制も金額も違うわけですが、協議会の中で、合併後に統一するとのことでしたが、現在の進捗状況と金額設定の現段階の見通しがあればお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

使用料の統一に向けましては、今、行政問題専門審議会にお諮りして、先月の末に意見をいただいたというところでございます。それを受けまして、財政的に検討して、その後、議案として提出したいというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

今審議中ということでございますが、ひとつ突っ込んだ質問をさせていただきますが、現在、北方町、そして山内町は、旧武雄市の農業集落排水事業の料金よりも安いわけでございますが、料金の統一ということで、山内、北方としては上がる方向になるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

山内、北方が上がるのかと言われたらちょっと、今審議会からの意見が出た段階では上がるということになっています。それを受けまして、うちのほうで十分検討しながら議案とし

て提出するということです。その金額についてはまだということです。（「公共下水道の分やろう、農集の分」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

農集の件については、基本的に審議会の意見の中で、合わせるべきだという附帯意見がついておりますので、そういう意見を我々はいただいておるところであります。今後議案として、今のところ下水道を中心に考えております。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

昨年の12月議会において、旧武雄市の同僚議員より財政に関する質問の中に、旧山内町の農業集落排水事業会計に対して大変厳しい御指摘がございました。端的に言って、経営感覚的に言えば、ランニングコストがペイできておらず赤字であり、使用料の設定自体が甘かったとの指摘でありました。確かに御指摘の部分は認めるところでありますが、そもそもの公共のサービスとしてこの事業を考えたとき、必ずしも黒字になることが自治体としての本来の事業会計とは限らないという思いも私はあるんですが、市長の見解をお求めいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も浦議員に７割ぐらいは同感であります。というのも、確かにこれでもうける必要はないと思います。公共サービスなので、これは道路とかと一緒だと思います。しかし、大赤字はいけないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

先日、ヒアリングの中で、山内町下水道整備計画策定業務基本計画の報告書を執行部よりお借りすることができました。当時の事務推進の趣旨説明に始まり、事細かに事業振興の計画、起債の償還の財政計画が載っておりました。

そこで、一部でありますが、趣旨説明、最初の文を読み上げさせていただきたいと思います。

「忘れかけていた蛍の飛び交う農村風景を取り返そうと、我が山内町では平成５年度より農業集落排水事業に取り組んでいます。実は、このような集落排水事業については、昭和53年度より着手しました農村総合整備モデル事業の中で、農業集落排水施設整備処理対象人口

2,200人の１工種として計画実施に向けて推進してきたところであります。元来日本は、水系に沿って集落ができ、水系ごとに利益を共有した水系社会が形成され、共同作業による生産活動がなされ、連帯意識が生まれ、それにより農村生活環境が維持されていました。当時の農村社会では、上水道の普及が佐賀県平均で77％という中で、下水道整備に至っては、整備率が全国で27％、佐賀県においてはいまだ計画段階という極めて低いレベルにあり、集落排水事業は農村集落における用排水路の改修工事ぐらいにしか思われておりませんでした。しかし、その後の農村社会は農業経営の衰退と相まって、生活形態の変化、変動は著しく、生活様式の多様化、核家族化の進展など、農家・非農家の混在が進み、農村の生活環境が一変してまいりました」。このような中で、るる説明がございます。「また、策定に当たっては、全町を対象としたトイレの水洗化と、そのほか生活雑排水の処理を効率的に行うために、各種の生活排水処理施設の特徴を十分に理解し、おのおのの施設の特徴を最大限に生かしつつ、地域の実情に即した施設整備が計画的に行われるよう留意いたしました。また、単に住民の要請に応じた無計画な点的整備ではなく、積極的に町の施策として位置づけた地域ぐるみの面的な整備計画とし、中・長期的な視点に立ち、山内町の将来像を見据えた計画としました」とあります。「また、町の全体計画と並行した業務遂行を余儀なくされ、実施地区の説明の傍ら、先進地の視察研修や計画概要書の作成、同意書の取りまとめなど、無我夢中の一年であった」と書いてあります。

そして最後に、「この厳しい財政状況の中、町においては住民サービスを停滞させることなく財源を捻出しつつ、事業の促進を図る考えでありますが、今後事業申請地区の急増が予想される中で、国の当事業に対する補助金予算拡大等の要請など実施市町村が一丸となった体制を確立され、蛍の飛び交う快適な生活環境の早期実現が図れることを念じつつ終わりたいと思います」と書いてあります。

大体、この文をお聞きいただいたら、山内町の趣旨がわかっていただけると思いますが、しかしながら、そもそも農業集落排水施設は、処理人口が約2,000人から3,000人の農村地区集落を対象とした事業であります。人口が１万人弱の山内町の全域を対象に整備するとなると、どうしても水系、地形に沿った地区割が生じ、おのずと処理施設自体の数が現存する５つもの数になっております。すべからく建設費も加算したのは事実であると思われます。

また、勾配のある地形上、自然流下が難しい場所も多く、中継ポンプの数も例を見ないほど多いのは現実でありまして、今後、経年を得たメンテナンス、維持費も想像につくところであります。

是は是として、非は非として、私は意見を申し上げたいと思いますが、樋渡市長は山内町における農業集落排水事業に対してどのような感想を持っておられるか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

山内町の農集に対する私の見解ですが……（「自分の見解ですか」と呼ぶ者あり）農集に対する市の見解として、よくやったなと私は思っています。水をきれいにすると、環境をよくするということで、全町挙げてされたということで、100％今整備ができているわけですが、武雄も本当はそういうふうにせにゃいかんわけですが、財政的に今厳しいというところから、マップを見直すという作業をしています。ですから、やったことに対して称賛はしますが、その後の負担ですね、借金返し、これをじっくり考えていかにゃいかんというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

好意的な御答弁をいただきましてありがとうございます。

先ほど読ませていただきました前文にもあるように、当時は生産性優先の個人的な考え方が強く、生活環境に対する関心はまだまだ薄かったと思われます。処理施設の用地買収や近隣の方の汚れやにおいなどに対する不安を解消し、御納得いただくまでの血のにじむような苦労は、完成した現在ではうそのような話でありますが、地元区長さんを初め役員さん、旧役場の担当課、そして地元議員の方らすべてが奔走し、何十、何百回と会議を重ね、紛糾、または停滞をしながら頑張ってこられた事業であるのも現実であります。

また、当時は道の駅前より有田町へと抜けるバイパスの開通や、大きな干ばつによる水不足から、狩立・日ノ峰ダムの建設等、住環境整備にしっかりとインフラの整備に力を入れていた当時の経緯がございます。

国の補助金や交付税なども、現在と比べれば優遇されていた時代とはいえ、小さいながらも独立性のある自治体を目指し、生活住環境の整備、また、インフラの整備に先見の目を持って努力してきたものとの自負はございます。

旧武雄市、旧北方町との合併をさせていただき、財政も同じくすることとなり、先ほどお話にもありましたように、ということでございますが、先行してきた事業の違いや自治体の規模、産業構造の違い、目指す方向性の違いなどはあってしかるべきものであり、旧市町の事業の１点のみを取り上げて、ともすれば無策であったかのような表現は少し残念でございました。

料金設定の表現を、普及率、加入率を上げるためのバーゲンセール的設定との表現は少し乱暴であったのではないかと思います。これは当時の12月の一般質問の件でございます。執行部からではございません。

しかしながら、この事業については、松浦川源流としての河口域の市町村への影響、責任としての役割も大きく、唐津選出の保利耕輔代議士の御尽力も多大なものがありました。そ

して、もちろん、ちょっときょうパネルを準備いたしましたが、（資料を示す）済みません、字が小さくて見えないと思いますが、申し上げます。（「執行部に見せんなら」と呼ぶ者あり）

口で御説明いたします。要は山内町は、大きな水流が２つございます。こちら右手のほうが東地区にあります鳥海川、三間坂川系の水系であります。そして、こちらのほうが宮野、西地区のほうの立野川内、また宮野のほうから流れる……（発言する者あり）ああ、そうですね。松浦川系の河川でございます。いずれにしても、見ていただくとおり、最終は旧武雄市のほうへ流れ込んでおります。済みません、小さくて。

そのため、特に旧武雄市の武内地区の農業用水としての水がめの影響は大きなものがあったと思います。

そして、この事業につきましては、陰りが差してきておりました建設業界にとっては、少なからず関連工事の受注など、生産性もあったと思われ、旧山内町内の活性化に目には見えないプラスの作用があったことも見逃せないことではないでしょうか。

今後、箱物の建設やインフラの整備などは、そのものの建設費の捻出が困難なことはもちろんのこと、その後の維持管理費に要する経費をかんがみたとき、断念、もしくは先送りせざるを得ないことは多々あるでしょう。合併前に１市２町それぞれが計画推進してきた事業の中にも、そういったものも出てくる可能性は十分考えられます。しかし、その際も、審議会や議会等で十分な議論を交わした上でないと、私たち議員も市民の皆様への説明責任が果たせませんし、何よりも市民のそれぞれの方の納得がいただけないものと思い、強く要望するものであります。

長くなりましたが、最後に、今後の新武雄市での下水道事業の取り組みについて、計画、将来像についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、答弁に入ります前に、議会、そして市民との違いは何かというふうに考えた場合に、市民は基本的にこれをやってほしい、あれをやってほしいというのが、基本的に政治学で言う市民の役割だというふうに思っております。これを否定するわけではありません。その上で、議会並びに執行部、特に私は政治家でありますので、考えなければいけないのは、何をやめて何をやるかということだというふうに思っております。

そういう意味で、議会にはそういった知恵出しもぜひお願いしたいというふうに思っております。もとよりこれは私も率先してやりたい。この上で市民にどっちを求めますかということをやらなければいけない。これが今難しい財政難の時代における我々政治家、あるいは議会人、そして執行部のあり方だというふうに思っております。

その上で、私は下水道の整備については、あくまでももうける必要はない、黒字にする必要はない、これは議員と同感であります。しかし、大赤字にしない持続可能な公共下水道体系というのをつくっていかなければいけない。下水道はもとより否定するものではありません。そういう意味で、財政状況をにらみながらどこまでできるかを線引きをきっちりやりながら、その計画に落とし込んでいきたい、そういう決意であります。

○議長（杉原豊喜君）

２番浦議員

○２番（浦　泰孝君）〔登壇〕

市長から御答弁をいただきましたが、私自身も下水道事業の大赤字とは言わずとも、採算性が合わない事業はきちんとした財政のほかの市の財政との関連を考慮した上での値上げ等はいたし方ないケースもあると認識はしております。そして、いろんな事業に対しましても、すべてが今の財政状況の中で、市民の皆様のすべての要望を満足させ得るべきもの財政状況でないということもよく認識をした上で、今市長が申し上げられましたとおり、一緒に知恵を出し合って市政を支えていきたいと思っております。

先ほど来紹介をいたしました山内の資料の中にもありましたが、コスト削減を図る上で、例えば、汚泥処理において移動式の汚泥脱水車を利用するなどの策の検証、研究や、将来的には可能かどうかわかりませんが、山内の処理施設を減らすための改造や研究も必要になってくる時期が来るのではないかと個人的には思っております。

繰り返しになりますが、環境問題は京都議定書の温室効果ガスの数値設定による削減を目指すように、国、地球規模で考える重要な課題となっております。武雄市の下水道整備におきましても、厳しい財政の中でありますが、将来を含めたコストを考えつつも、市民の皆さんに負担をなるべくかけない使用料の設定など、自治体としての公共の事業、公共のサービスとしての理念も忘れないでいただき、事業推進をしていただきたいと思います。

そのためには、まずは全体的な整備の計画を立てていただき、時間がかかっても推進をしていただきたいと思っております。

また、今後も合併した１市２町、それぞれの歴史、事業の違いによる調整、協議項目がまだまだ山積しているわけでありますが、悠長なことを言っていられないのっぴきならない時世であるということは、私どもも百も承知でございます。市長の心中を察するに余りあるところではありますが、まずは急激な変化で市民の皆さんが混乱のないような対応をこれからも望むものです。

今後も市長のさらなる活躍と執行部の賢明な事業推進を期待しまして、私の一般質問を終了させていただきます。